

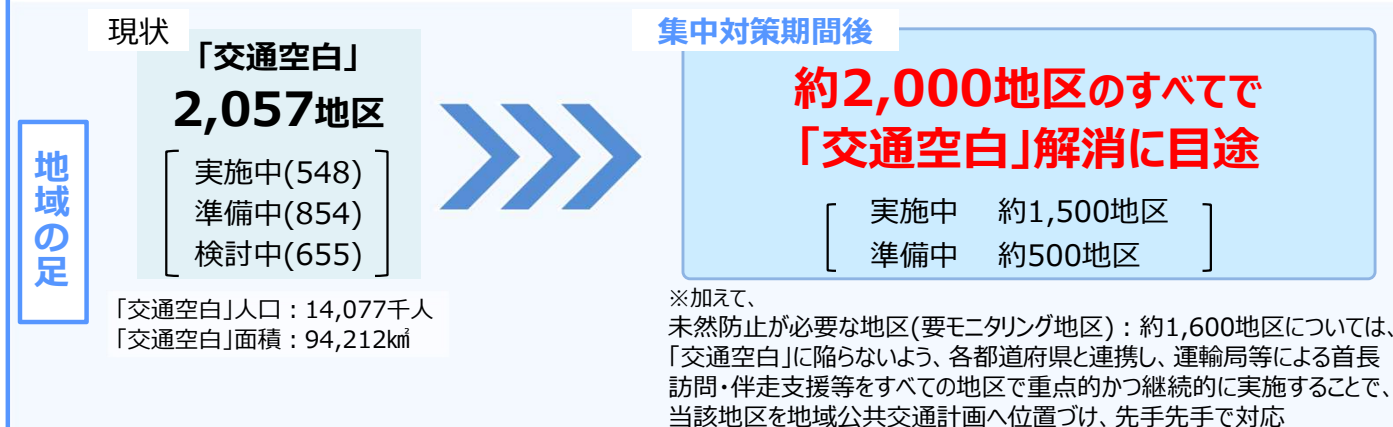
「交通空白」解消に関する調査について

「交通空白解消・集中対策期間」における取組方針(概要)

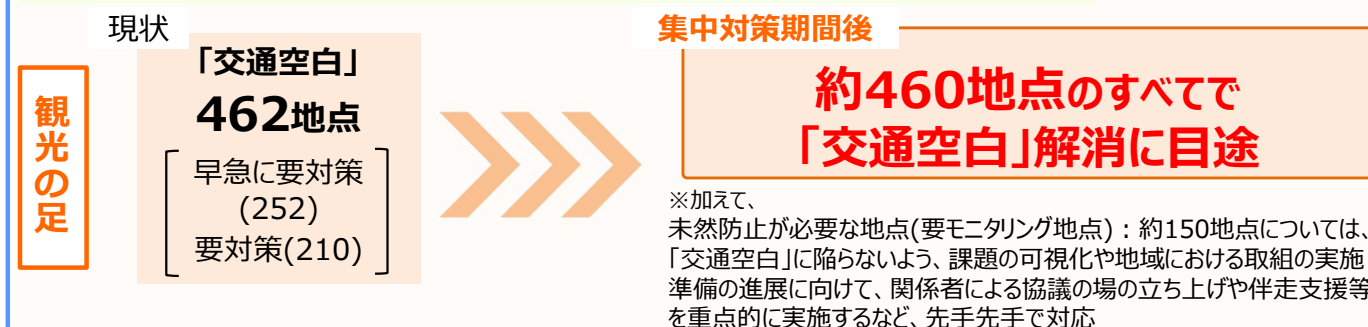
「交通空白解消・集中対策期間」における取組方針

集中対策期間（令和7～9年度）において、全国の「交通空白」解消に早急に取り組むとともに、集中対策期間後も見据え、加速する人口減少・高齢化への対応やインバウンドの地方誘客に向け、今後発生する「交通空白」への対応のほか、「交通空白」を発生させない先手先手の対応に向け、自治体等における「交通空白」解消に向けた持続可能な体制づくりを推進する。

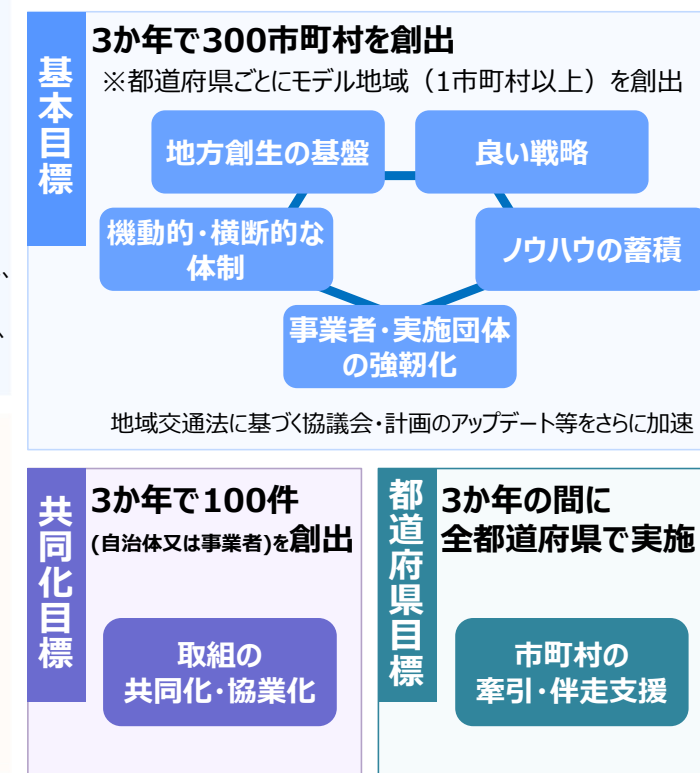
(1) 目の前の「交通空白」への対応



「地域の足」×「観光の足」の総合的な確保（ハイブリッド化）も推進



(2) 「交通空白」解消に向けた持続可能な体制づくり



国による総合的な後押し

地方運輸局等による
首長訪問・事業者との
橋渡し・伴走支援

制度・事例等に係る
情報・知見の提供
ガイダンス、ポータルサイト、カタログ

実証・実装等に向けた
十分な財政支援

「交通空白」解消・官民
連携プラットフォーム
民間の技術・サービス、マッチング・
交流の場、パイロット・プロジェクト

新たな制度的枠組み
の構築
共同化・協業化、自治体の体制強
化、観光の足とのハイブリッド化 等

「交通空白」であること

- ① 誰もがアクセスできる移動の足がない、又は利用しづらいなど、地域交通に係るお困りごとを抱えていること
(必ずしも、地理的、空間的な交通空白「地」に限らない。)

【例】

- ・路線バスの廃止・減便や、タクシーの廃業により、買物・医療・教育など移動の足が不足している
- ・自家用車での移動もままならない高齢の住民が居住する、互助輸送のみに頼っている
- ・父母ともに働いており、子供を学校や習いごとに送迎する手段が存在しない
- ・朝夕の通勤・通学時間帯に地域交通が不足している
- ・タクシーの運転手が高齢化し、夜の時間帯にタクシーが廃止された

【留意事項】

「交通空白」の判断にあたっては、画一的指標による判断のみならず、**地域の実情や利用者目線を踏まえた判断**が求められる。

(「交通空白」とされることが望ましい例) >

- ・鉄道駅から500m徒歩圏内にあるものの、当該駅からの列車本数が極めて少なく、病院や学校へ行く移動手段としては使い勝手が悪い
- ・最寄りのバス停から300m圏内であるが、坂道が多い団地で高齢者にとって移動がしづらい。
- ・タクシーも電話予約しても配車されないことが多く、日常生活の移動に支障がある
- ・区域運行のエリアだが、前日予約が必須であることや、朝夕に配車されないなどの課題がある

「何らかの対応が必要」と認識されていること

- ② 上記①の「交通空白」に関して、自治体や地域住民等がその解消に向けて何らかの対応が必要と認識しているもの
(課題認識はあるが、空白解消の手段が未定・検討中のものも含む。)

【例】

- ・路線バスやタクシー廃業を受けて、高齢者や子どもの足を確保しなければならず、代替手段として、コミュニティバスにするか公共ライドシェアにするか、地域協議会において検討していく見込みである。
- ・運転手不足に伴い、地域住民が日常利用している路線の維持が難しくなる中、スクールバスや病院、商業施設送迎の路線バスへの統合を検討していく見込みである。
- ・集落の住民に免許返納者が増え家族や知り合い送迎による対応も限界を迎え、そろそろ「移動の足」の整備が必要と強く感じているが、そもそも、誰が、どのような輸送形態でサービスを確保すべきかわからない。

「交通空白」であること

①

訪日客を含む観光客が、主要交通結節点から観光スポットや宿泊先に向かう移動の足がない又は利用しづらい、あるいは、移動手段自体はあっても、観光客向けのわかりやすい情報発信が不十分であるなど、二次交通に係るお困りごとを抱える地域
(必ずしも、タクシー等の二次交通がない「交通空白」に限らず、多客期等に移動手段が不足する場合等も含む)

【例】

- ・最寄り駅から観光スポットまで、配車から30分以上待ってもタクシーを利用できない
- ・スノーシーズンに多くの観光客が訪れ、駅前バス乗り場で積み残しが出る
- ・乗合タクシーが運行されているが、多言語での発信がされていない

【留意事項】

「交通空白」の判断にあたっては、画一的指標による判断のみならず、**地域の実情や利用者目線を踏まえた判断**が求められる。

「何らかの対応が必要」と認識されていること

②

上記①の「交通空白」に関して、地域の関係者がその解消に向けてなんらかの対応が必要と認識しているもの
(課題認識はあるが、空白解消の手段が未定・検討中のものも含む。)

【例】

- ・多客期における路線バスの運行本数やタクシー台数の増強を検討中
- ・複数の観光スポットの周遊に利用できる交通手段について、経路検索アプリや観光案内ウェブサイトでの多言語掲載を実施予定

令和7年の調査において把握した全国約2,500地区の「交通空白」地区等に関する解消の取組の進捗を確認するとともに、調査後に新たに発生した「交通空白」地区等を把握することを目的に、令和8年も「交通空白」リストアップ調査を全市区町村に対して実施。

(実施時期：令和8年2月2日(月)～27日(金))

調査方針

令和8年度「交通空白」関連予算において、「交通空白」リストアップ調査との連動を強化する方向

<調査対象>

➤ 全市区町村を対象

・令和7年調査と同様に全市区町村を対象とし、「交通空白」解消の進捗等を確認。

※回答結果は、都道府県における市区町村への支援体制構築を促進するため、管轄する都道府県に共有する。

<調査方針>

① 令和7年のリストアップ調査における「交通空白」地区・要モニタリング地区の進捗状況

(例) 「検討中」→「準備中」、「要モニタリング地区解消」など

② 新規に「交通空白」地区・要モニタリング地区となった地区の把握

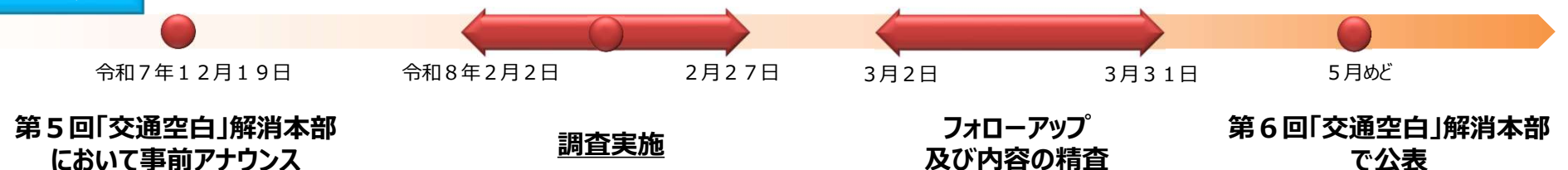
※①の場合はステータス変更の要因、予算措置による効果、今後の事業スケジュール等を詳細に記載することを求める。

※②の場合は令和7年度の調査からの変更理由を詳細に記載することを求める。
(例) 令和7年にバス路線廃止の方針が打ち出され、それに伴い●●地区が新たに「交通空白」地区となる見込み

<実施時期>

➤ 令和8年2月2日(月)～27日(金)

スケジュール



令和7年の調査において把握した全国約460地点の「交通空白」地点等に関する解消の取組の進捗を確認するとともに、調査後に新たに発生した「交通空白」地点等を把握することを目的に、令和8年も「交通空白」リストアップ調査を地方自治体、観光協会、DMO等に対して実施。

(実施時期：令和8年2月2日(月)～27日(金))

調査方針

令和8年度「交通空白」関連予算において、「交通空白」リストアップ調査との連動を強化する方向

<調査対象>

- 地方自治体、観光協会、DMO（観光地域づくり法人）

・「交通空白」解消の進捗等を確認。

※回答結果は、地域における支援体制構築を促進するため、地域の関係者に必要に応じて共有する。

<調査方針>

- ① 令和7年のリストアップ調査における「交通空白」地点・要モニタリング地点の進捗状況

(例) 新たな取組の開始、具体的な検討の進捗など

- ② 新規に「交通空白」地点・要モニタリング地点となった地区の把握

※①の場合は具体的な取組の詳細や、検討状況を詳細に記載することを求める。

※②の場合は令和7年の調査からの変更理由を詳細に記載することを求める。

<実施時期>

- 令和8年2月2日(月)～27日(金)

スケジュール

